

わが村は美しく

広尾町編

第十二回 優秀賞

ピロトゥーリズム推進協議会



7月から10月が昆布の最盛期だが、その後も浜に流れついた「拾い昆布漁」が続く。

お話をしてくれた人



ピロトゥーリズム推進協議会 会長
菊地 亜希 さん



「星屑昆布」と、未利用部分の昆布100%の天然おやつ「噛む噛む昆布」。



漁業・林業・農業を通じて魅力発信。
一次産業の体験、海産物の商品化などで
広尾町をアピール。

地の利を生かして
多彩な体験メニューを創出。

十勝とは、帯広市をはじめ二市十六町二村のことを指す総称だ。産業は農業や林業が中心だが、南端に位置する広尾町は、十勝を代表する港を有し、太平洋に面しているのが大きな特徴だ。

二〇一九年、広尾町の魅力を伝えたいという同じ思いのメンバー七人で設立されたのがピロトゥーリズム推進協議会。地域の一次産業に携わるメンバーによつて広尾町の魅力を伝えることを目的とした組織だ。

ピロトゥーリズム推進協議会会長の菊地亜希さんの生業は酪農。二〇〇九年、夫の亮太さんと広尾町で新規就農した。お世話になった町に何か恩返ししたいと、一次産業の現場を知る

機会づくりとして、二〇二三年から地元の有志たちと「ピロロフェス」を開催している。

「ピロロフェスを十年以上やってきて、一年に二回の開催では町の魅力を伝えきれないと感じていました。そこで常時、一次産業に触れることができるように協議会を立ち上げて活動をはじめました」と話す。

広尾町は、とても個性的な町だ。林業も盛んで、サンタクロースの故郷であるノルウェーから国外初・日本唯一の「サンタランド」に認定されている。漁業では、太平洋の良質な漁場から、昆布やシシャモなどの豊富な水産資源を有している。

協議会の発足からわずか六年目にして、活動は多彩。

菊地さんはこう話す。「メンバーそれぞれの生業を知ってもらうことを大事にしています。地元漁師の保志弘さんは、海に

第11回コンクール



参加しよう、広げよう、いいもの伝えよう
「わが村は美しく－北海道」運動

広尾町へは、JR帯広駅から十勝バスが運行。周辺を散歩するなら駅レンタカーを利用するのが便利。丸山森林公園には広尾サンタランドがあり、「サンタの家」や「サンタの部屋」は一年中楽しめる。協議会の詳しい活動はフェイスブックを、観光情報は広尾町観光協会のホームページなどを参考にしてください。
お問い合わせ／ピロトゥーリズム推進協議会 ☎01558・2・0008



4 広尾高校の生徒と一緒に商品開発した「サンタのつぶやき」



3 鹿のモモ肉を捌く体験も人気メニューの一つだ。



8 2022年3月に出版した、広尾町ガイドブック「PIRUY (ピルイ)」。



7 星屑昆布の「ペペロンチーノ」はオススメ。和風だけではなく洋食との相性が良いことに驚いた。



6 ブラウンスイス種の経産牛肉をハンバーグや生ハムなどに加工。



5 「菊地ファームカフェ」の店内。ソフトクリームやジェラートのほか「十勝わがママビーフ」を使ったメニューも提供

関する体験の中心的人物です。昨年は、町民向け食育教室『ホッ キー捌き方講座』を開催し、昆布干し体験、魚の捌き方体験など、海のプロデューサーとして活動しています」。

メンバーの個性が連携して町の魅力をトータルで伝える。

地域特産物の開発では、北海道広尾高等学校とともに「サンタのつぶやき」というネーミングで、たこ焼きのタコをツブに変えて、祭りやイベントで提供している。

昆布を使った商品も個性が光る。昆布の製造途中で出る端材(未利用食材)に価値を与えたのが「星屑昆布」。昆布を細かく粉碎した新しい昆布調味料だ。ダシはもちろん、ご飯にふりかけたり、混ぜたりして昆布の旨みが味わえる。

また、最近では「噛む噛む昆布」の販売を開始。昆布一〇〇％の天然おやつと称し、ガムとそっくりなボトル入り。ボトルには商

品化までの流れがイラストで紹介されていて見るだけでも楽しい。

広尾町ガイドブック「PIRUY (ピルイ)」の発行では、二〇二〇年に移住してメンバーに加わった中村麻矢さんが編集を担当。町内で活動する人々の物語を紹介している。「中村さんは、狩猟免許を持ち、鹿のハンターとしても活動。そのキャリアを生かして、狩猟にまつわる体験メニューも担当しています。個々の得意分野が生かされていると思います」と菊地さんは話す。

さらに菊地さんは、牧場にカフェをオープンし、ソフトクリームやジェラートを提供。また、ブラウンスイス種の経産牛肉を「十勝わがママビーフ」としてブランドینگ。カフェで味わうこともできる。

協議会の活動がきっかけとなり、地域でさまざまな活動している一次産業の人々が、連携することで点から線へ、そして面へと広がりを見せている。「もっと多くの人が広尾町に関わってくれればうれしい」と菊地さんは意欲を見せていた。



「わが村は美しく北海道」運動は、北海道の農林水産業をより豊かにするために、2001年にスタートしました。2年に1度コンクール形式で優秀な活動を表彰しています。コンクールは1年目に優秀賞、奨励賞を表彰し、2年目に優秀賞から大賞を決定。地域の資源を掘り起こし、地域の活力とすると同時に活動を広くアピールし、豊かな北海道を未来へと受け継いでいくことを目的としています。

お問い合わせ／国土交通省 北海道開発局 農業水産部農業振興課 ☎ 011・709・2311 (内線5685)

